

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.14 2008年7月31日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

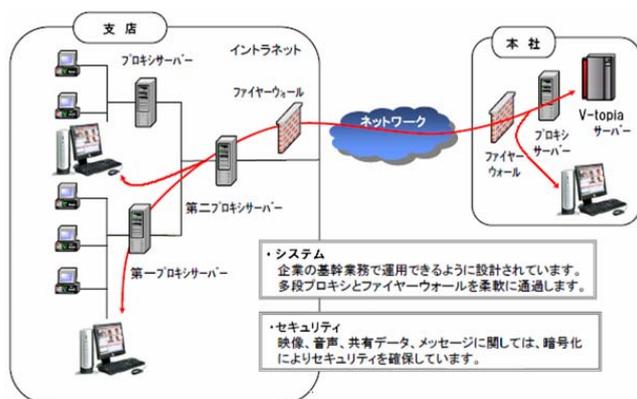
Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

エヌ・シー・エル・コミュニケーション、メッセンジャー、ビデオミーティング、ストリーミング、Web セミナー、ソフトフォンを提供する、PC 向け多機能コミュニケーションシステムの販売開始

エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社(東京都中央区)は、PC 向けビジュアルコミュニケーションシステム「V-topia(ブイトピア)」を6月13日より販売開始した。

V-topia は、V-topia のサーバを設置し、クライアントPC 側に V-topia クライアントソフトをインストールして使用するクライアントサーバ型のシステム。メッセンジャー、ビデオミーティング、ストリーミング、Web セミナー、ソフトフォンの5つの機能からなる。ただし、Web セミナーとソフトフォン機能はオプション(カスタマイズ可能)でのみ提供。



クライアント/サーバ型 V-topia システム構成例

「V-topia は、SIP と H.323 に対応し、5 つの機能をひとつのソフトウェアで提供する (Five In One) 多機能なビジュアルコミュニケーションシステムだ。IP ネットワーク環境に柔軟に対応し、狭い帯域環境においても、高速圧縮アルゴリズムによって高画質と鮮明な音声を実現している。またデータの暗号化 (AES 128bit) にも対応している。当社では、今まで音声

を主体とした CRM 系の製品群を提供してきたが、昨今のブロードバンド化や NGN の動向を踏まえ映像ソリューションへの期待が高まっていると実感している。そういったことから、既存の音声との連携も含め幅広い映像ソリューションへのニーズに応えるため V-topia を提供開始することにした。」(エヌ・シー・エル・コミュニケーション)

V-topia は、クライアント PC からサーバにログインすることで、5 つの機能のボタンを表示したメニューパネルが PC のデスクトップ上に表示される。「メニューは非常にわかりやすく、取扱説明書なしで簡単に使用できるユーザーインターフェイスを持っているのが V-topia の特長だ。要望に応じてカスタマイズも可能だ。」(エヌ・シー・エル・コミュニケーション)



V-topia メッセンジャーリスト (画面中央) とメニューパネル (右) メッセンジャーリストはプレゼンスとしても機能する。

メッセンジャー機能は、映像、音声、テキストを利用した 1対1のカンファレンス機能。V-topia サーバに現在ログインしているクライアントユーザの一覧も表示されるためプレゼンス機能としても利用できる。つまり、このプレゼンスに表示される相手をクリックし、コミュニケーション方法 (映像、音声、テキスト) を選ぶことでコミュニケーションが簡単に

開始できるということだ。また1対1のチャットから始めて、途中から音声や映像でのコミュニケーションへ切替えることも可能だ。

1対1のメッセージャーに対して、3名以上の多人数でのコミュニケーションでは、ビデオミーティング機能(Web会議)を使う。この機能では、50名までの同時参加が可能で、内1画面の最大表示は25名だがスクロールにて残りの参加者も表示可能だ。その他、同時参加者に加え傍聴参加者(都合50名)にも対応している。使用帯域は、1クライアントユーザあたり、256kbps程度でもスムーズな高品質画像を実現している。画面には参加者一覧が表示される他、参加者間でチャット、ホワイトボード共有、Webページ共有、ファイル共有、ファイル送信、録画記録も行える。



資料共有を行えるビデオミーティング

ビデオミーティングは、即時にも事前予約にも対応している。事前予約の場合、予約された時間になると、その参加者のPC画面にポップアップでビデオミーティング開始の通知がなされる。さらにミーティング中に参加予定外の人を招待することも可能。ただ、その招待されたユーザがV-topiaにログインしている必要はある。

V-topiaには、議事録として使用できるテキストチャットの他、映像付きのチャットも提供している。「ビデオミーティング中の参加者全員チャットはテキストになるが、個別のチャットは、映像付きのチャットが行える。その場合V-topiaのメッセージャー機能を使うが、他のWeb会議システムではテキスト

のみだと思う。これは、V-topiaの特長のひとつだ。もちろん、映像チャット後はまたもとのビデオミーティングに戻ることができる。」(エヌ・シー・エル・コミュニケーション)

ストリーミング機能は、リアルタイムあるいは録画したものの映像配信を行う機能。ストリーミングを配信する際には、コンテンツを配信するホストが、その受信者を選択しネットワーク帯域などを設定する。ストリーミングは基本的に一方方向の映像送信だが、送信中にホストがある特定の受信者に発言させることも可能だ。

ソフトフォン機能は、IP-PBX環境での使用を想定したコミュニケーション機能で、Webセミナー機能は、1対N配信という意味ではストリーミング機能に似ているが、オンラインセミナー用途にあわせたシステムを基本的にエヌ・シー・エル・コミュニケーションがカスタマイズして提供するという。

「V-topiaは、コミュニケーションツールであるため、幅広い企業のコミュニケーションニーズに対応できると考えている。当社としては特に金融関係やコールセンター向けに販売を展開していきたいと考えている。」(エヌ・シー・エル・コミュニケーション)

エヌ・シー・エル・コミュニケーションは、昭和61年設立。ストレージ事業、セキュリティ事業およびCRM事業に注力。超大容量ストレージ、日本版SOX法対応システム、PC HDD暗号、PCバックアップ、本人認証USBトークン、コールセンター通話録音、CTI音声・FAXボード、CT開発ツールなどで、大学、研究機関、金融系、電気、自動車、空港港湾系などでの幅広いシステム導入実績を持つ。今はストレージ、セキュリティの2事業をさらに強化しつつ、CRM事業では、新たにビジュアルコミュニケーション分野の立ち上げを行っている。

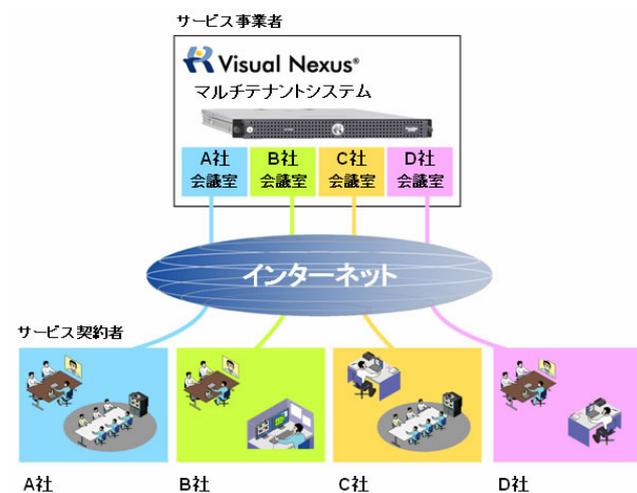
沖電気工業、大規模運用、マルチテナント機能を搭載したVisual Nexus最新バージョンの販売開始

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、ソフトウェア型H.323対応ビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアル

ネクサス)の最新バージョン「Visual Nexus ver3.2-3」の販売を7月10日より販売開始した。

Visual Nexus ver3.2-3では、ビデオ会議の大規模運用に関連した機能を強化したのがポイントのひとつ。ビデオ会議端末の情報を管理するデータベースの最大登録件数を5000件まで拡張し、ゲートキーパーへの同時接続が最大1000台まで可能になった。

また会議サーバの負荷分散機能も搭載した。この機能は、複数台数のビデオ会議サーバの中から、接続負荷の少ない会議サーバを判別し、個々の端末の接続先を自動的に割り振ることでシステム全体の負荷を平均化するもの。



マルチテナント機能

さらにASPサービス運用を可能にするマルチテナント機能にも対応した。ひとつのVisual Nexusシステム上で利用者毎に専用のテナントを設けることができ、個々のテナントごとに独立した管理を可能にするとともに、テナント間のセキュリティを保ちつつシステムの共有を可能にする。この機能を使用することで、テナントの追加、削除、編集の他、個別のテナントのユーザ、グループ、会議室の管理権限を全体のシステム管理者から委譲することもできる。

多地点会議用サーバ「Visual Nexus Meeting Server ver3.2-3」(同時10ユーザライセンス、以下同)については、198万円(税別、以下同)。端末用の「Visual Nexus Endpoint ver3.2-3」は、98万円。オプションの「Visual Nexus Secure Transport ver3.2-3」は、98万円。「Visual Nexus Media Translator」は、9万円。ユーザライセンス11以上の場合、別途追加ライセンス費がかかる。

沖電気工業では、年間1500ライセンスの販売を目標とし

ている。Visual Nexusの担当部署は、同社ビジュアルネクサスカンパニー。

日立コミュニケーションテクノロジー、HD画質に対応したNetCS series 後継製品を発表、専用端末との接続、IP-PBXとの連携、最大200箇所の多地点も可能

株式会社日立コミュニケーションテクノロジー(東京都品川区)は、HD映像ビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS-HD(ネットCS-HD)」を開発すると発表。発売開始予定は、今年10月。

同社では、現在NetCS seriesとして、PCデスクトップタイプとして「NetCS」と、ループタイプの「Symposite(シンパサイト)」を販売しているが、NetCS-HDは、NetCS seriesの後継製品として提供する。「会議室設置タイプ」とPCを利用した「デスクトップタイプ」の2タイプを用意する。

NetCS-HDは、専用の多地点接続装置(MCU)を利用しない方式で多拠点会議を実現するシステム。最大多地点数は、NetCSでは最大40端末であったが、NetCS-HDでは、最大200端末まで拡大した。

映像コーデックは、ネットワーク帯域の変化やパケットロスに対し映像帯域を制御可能な最新の「H.264SVC」を採用。H.264SVCは、2007年ITU-Tにおいて規格化されている。

既存ビデオ会議システムとの接続もサポートしている。ポリコム、ソニー、ライフサイズなどとNETCS-HD混在の多地点ビデオ会議も行えるようになっている。

NetCS-HDは、IP-PBXとの連携も可能だ。内線相互のテレビ電話から外線的一般電話機を含めたビデオ会議も可能だ。2009年3月には、NTTドコモの3G携帯「FOMA」やNTT東日本、NTT西日本の「フレッツフォン」にも対応する予定。

ブイキューブ、環境保全とコスト削減効果を確認できるツールを発表

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社のウェブテレビ会議サービス「nice to meet you ミーティング」あるいは「nice to meet you セミナー」を使うことによって、削減できたCO2(二酸化炭素)排出量や交通費、移動時間が

表示され、環境保全やコスト削減効果を一目で確認できるツール「ECO メーター(エコメーター)」を発表した。このECO メーターは、ASP サービスならびに SI(カスタマイズ販売・イントラ版)にて提供する。



ECO メーター

nice to meet you ミーティングあるいは nice to meet you セミナー参加者が事前に最寄りの駅をECO メーターに入力すると、会議やセミナー会場に集まった場合の最寄り駅からの移動時間を算出し、交通費や移動にかかる時間、さらには会議、セミナーをウェブテレビ会議やオンラインセミナーに変えたことによるCO2削減率を、会議毎あるいは月次、年間の累積で算出することができる。

ブイキューブのプレスリリースによると、以下のようにECOメーターの意義を説明する。「企業の環境活動の行動量を可視化(見える化)することで、実際に使う個々人がウェブテレビ会議やオンラインセミナーの利用効果を明確に認識し積極的な利用を促進していくことで、ビジュアルコミュニケーションが経費削減のツールのみならず、企業のCSR活動などにおいて重要な役割を果たすことができると考えている。」

業界ビジネス動向-海外

タンバークとバルコ、新た新しいHD テレコラボレーションを開発

タンバーク社とバルコ社(Barco)は、1080p HD 対応のテレ

コラボレーションソリューションを共同開発したと発表。この新ソリューションは、タンバーク社の H.323/SIP 対応テレビプレゼンスエンジン「TANDBERG Codec C90」と1080p 対応高品位カメラに対して、バルコ社の「XDS Control Center(XDS コントロールセンタ)」ソフトウェアスイートとを統合したテレコラボレーションソリューション。



このソリューションは、大画面上に様々なソースからのデータを1080pの非常に高い画質で映し出すことができ、複数のソースの異なるデータのリアルタイム分析などが可能になる。

「バルコのマルチウィンドウ型表示システムとタンバークのHDビデオ会議システムを統合したソリューションは、政府官公庁、電気・ガス、自動車業界など、サイズの大きいデータを大量に扱い、地理的に離れている複数の地域間でリアルタイムに作業を行う必要がある企業や組織などに大きなメリットを提供する。」(タンバーク)

XDS Control Centerは、Windows環境に対応しており、LCDパネル、プロジェクタ、シングル/マルチチャンネルプロジェクションシステムを含むバルコの製品をサポートしている。またバルコ社のディスプレイシステム「XDC-3000」(シングルプロジェクタ 10Mピクセル)を組み合わせると、ユーザは複数のソースからの画像を自然な解像度で同時に表示することができるという。

バルコ社(NYSE, Euronext Brussels: BAR)は、業務市場向けに可視化製品を設計、開発し、グローバルに展開している企業。90カ国以上の地域に販売拠点やマーケティング、顧客サポート、研究開発、製造施設があり、3,600人の従業員が働いている。2007年の売上は、7億4700万EURO。

タンバーク、北アジア地域の統括責任者を新たに任命

タンバーク社は、北アジア地域のプレジデントとしてダニエル・ヨハンソン (Daniel Johansson) 氏、また中国のバイスプレジデントとしてアレックス・リー (Alex Lee) 氏を任命したことを発表した。

「今後の大きな成長が見込まれている日本市場及び中国市場における当社ビジネスの更なる加速とプレゼンスの確立を推進することがねらいだ。」(タンバーク社)

ヨハンソン氏は、2000年にタンバーク社に入社後、南欧地域ディレクターや中南米地域ディレクターなどの要職を歴任し、直近の役職は、欧州・中東・アフリカ(EMEA)地域のバイスプレジデントとして68カ国の責任者であった。

リー氏は、アジア太平洋地域で27年間に渡りIT業界でのマネージメント経験を持ち、Silicon Graphics社のプレジデント、Compaq Computer(中国)のマネージングディレクター、Tandem Corporation(中国、香港、台湾、シンガポール地域)のプレジデントなどの要職を歴任している。

ヨハンソン氏は、今後現日本タンバーク代表取締役社長林田直樹氏と、新たに着任した中国のアレックス・リーと緊密に連携していく。「世界のビデオ会議及びテレカンファレンス分野において、日本と中国は最大かつもっとも急成長している市場だ。市場調査会社Wainhouse Research社の2007年の調査によると、アジア太平洋地域のビデオ会議市場全体に日本と中国が占める割合は70%に上り、2006年から2007年にかけての市場規模の成長率は、中国市場だけでも52%に上る。」(タンバーク社)

ヨハンソン氏は、上海にあるタンバーク北アジア統括本部を拠点に、一方、リー氏は、北京オフィスを拠点にする。

市場動向

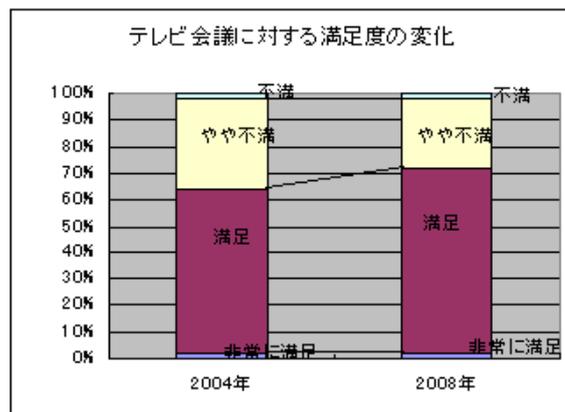
シード・プランニング、テレビ会議/Web会議のビジネス利用実態調査2008を発刊、日常的なテレビ会議の利用が定着し始めている

株式会社シード・プランニング(東京都台東区)は、調査研究レポート「テレビ会議/Web会議のビジネス利用実態調査2008」を7月に発刊した。

本レポートは、日頃テレビ会議を利用しているビジネスマン515名(有効回答数)を対象に、テレビ会議、Web会議、

電話会議の、導入状況、接続拠点、利用状況、評価、利用したい端末、今後の改善点、データ共有の利用状況などについてインターネットのアンケート方法によって調査分析を行いまとめたもの。2004年から毎年行っている調査で、過去4年分の分析も行った。特に「高精細についてのニーズ」の分析を重視した。

今回の結果のポイントは、同社によると以下の通り。



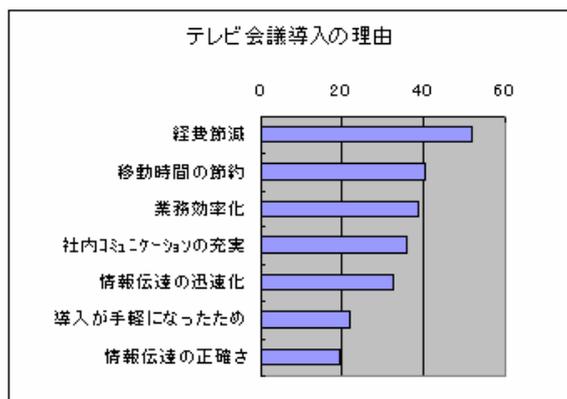
シード・プランニング調査グラフ(上)

(1)テレビ会議システムについて利用ユーザが行った総合評価では、「非常に満足」と「満足」をあわせて72%のユーザが満足している。2004年調査時の64%から8ポイントの増加。一方、不満を有しているユーザ(「不満」と「やや不満」の合計)は、28%で、2004年の36%から減少している。

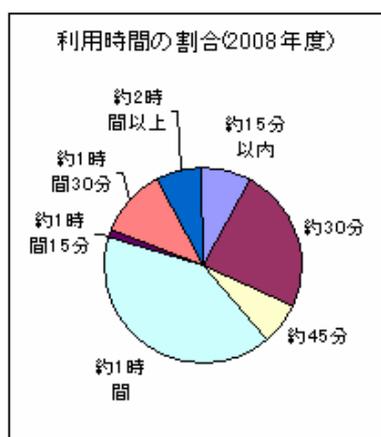
(2)テレビ会議の導入理由では、「経費節減」が51%と最も多く、次いで「移動時間の節約」、「業務効率化」などが目的の上位に位置した。2004年とくらべても経費節減は増加している。

(3)テレビ会議の利用時間は、2008年では、「約1時間」が41%でもっとも多く、全体の80%が1時間以内で終わっている。2004年と比較すると、「1時間30分」、「2時間以上」が減少し、「約30分」、「約45分」が増加している結果になった。傾向として短時間のテレビ会議を頻繁に行う様子がうかがえる。

(4)テレビ会議の利用頻度については、「月1~2回の利用」がもっとも多く全体の1/3を占める。2004年と比較すると、「週1~2回」の割合が一番増加しており、「ほとんどつかわない」の割合が減少している。日常的なテレビ会議の利用が定着し始めていることが伺えると同社では分析する。



シード・プランニング
調査グラフ(上、左下)



(5) 最近注目を浴びている HD テレビ会議の導入状況については、2007 年の 5.6% から 2008 年には 8.5% に増加している。また今後の導入意向については、「予定あり」と「条件等による」を合わ

せて 60% が前向きな結果がでた。

テレビ会議/Web 会議のビジネス利用実態調査 2008 は、1 冊 16 万円(税別、A4 195 頁)。CD-ROM 版も別途費用で提供している。

ZDNet Japan スペシャル

ZDNet Japan (<http://japan.zdnet.com/>) スペシャルで 2 月 7 日より「進化するテレビ会議」特集が始まりました。その中で、橋本もコラムを何回か書かせて頂きました。よろしければご覧いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

進化するテレビ会議

<http://japan.zdnet.com/sp/feature/visualcomm/>

- (15) --会議システムはユーザーの発想と工夫で用途が広がる
- (14) --会議システムの効果を生み出す最良の方法(5月29日)
- (13) --マイクロソフト:ウェブ会議はもっと手軽でなければならぬ
- (12) --ブイキューブ:セミナーやセールスなどに広がり見せるビジュアルコミュニケーション
- (11) --ソニー:AVメーカーらしさを追求したビデオ会議システム
- (10) --ウェブエックス:実務者の共同作業に適したウェブ会議

- (9) データ共有でメリット活かすウェブ会議システム
- (8) 導入しやすくなってきた会議システム
- (7) 単純には進まなかった会議システムの IP 化
- (6) アエスラ:通信機器のノウハウ活かす会議システム
- (5) タンバーク:業務を革新させるビデオ会議システム
- (4) ポリコム:会議の質を変える HD 対応からテレプレゼンスへ
- (3) NTT アイティ:会議システムは業務改善ツール
- (2) ビジュアル コミュニケーションの歴史
- (1) ホウレンソウと遠隔会議システムの深い関係

セミナー・展示会情報

投資対効果最大化 Web 会議を失敗しないための AtoZ ~ 成功事例にならう Web 会議の画期的活用術とは? ~

日時:8月6日(水) 15:30 - 17:00

会場: キヤノンソフト情報システム 東京支社

主催: キヤノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1099>

中継! 対面レベルの情報共有を実現した最新テレワークの現場 ~ 会社員は必ず出社が基本?! ~

日時:8月7日(木) 14:00 - 15:00

会場: ウェブセミナー

主催: ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社

詳細・申込:

http://www.webex.co.jp/web-seminars/webseminar_080708.html?SourceId=hpg

Adobe Connect 新バージョン紹介セミナー
オンデマンドとリアルな e ラーニングを実現する
Connect の進化に刮目!!

日時:8月7日(木)14:00~16:15 (開場 13:30~)

会場: アドビ システムズ株式会社 会議室(東京品川区)

主催: 株式会社大塚商会

協賛: アドビ システムズ株式会社/NEC システムテクノロジー株式会社

詳細・申込: <http://event.otsuka-shokai.co.jp/08/1009adobe/>

*9月、10月も予定あり。

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

8月15日号の発行については、恐縮ですが、例年通りお盆休みとさせて頂きまして今号の次は8月31日号になります。

掲載していない記事もありますが8月31日号以降で掲載いたします。

次回も宜しくお願い致します。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介